

農業・農協つぶしに団結して 対決を 第7回藤島地域農政懇談会

第7回藤島地域農政懇談会が25日、JA庄内たがわ藤島支所で開かれ、藤島地域の市議会議員及び市農業委員、庄内農業共済組合理事、JA庄内たがわ理事、各関係部所の職員が出席し情報交換をおこなっていました。

市に予算要望

市に対するJA庄内たがわの平成26年度の農林予算要望では総額1億1600万円を要求しています。生産振興事業では、JAが推進する品目の種苗費助成で山菜及び果樹、アスパラ、ねぎの421万円。重点作物の試験・実証圃設置では庄内柿の防除試験、枝豆の側条施肥、ミニトマトの品



環太平洋連携協定(TPP)への断固反対を訴える県民集会が29日、山形市の山形国際交流プラザで開かれ、約1700人が出席。写真はJA庄内たがわ代表団



種比較、長ネギ・軟白ねぎの作型拡大、軟弱野菜の品種比較など30万円。首都圏への販売強化のための職員雇用に400万円。花き種苗価格差補てん事業は新規の要求で、庄内町種苗センターの利用料金が町民と町民以外で価格差があり、その分を補てんする事業で35万円を要求しています。堆肥散布土づくり支援では、堆肥散布組織助成として2500鈔×200円/10㍎の500万円。JA庄内たがわ月山ワイン山ぶどう研究所では、古くなったワイン果汁充填ラインの更新6800万円と製品タンク新設5200万円のそれぞれ2分の1

情報交換

情報交換では、政府の米生産調整の見直しや農地中間管理機構(農地集積バンク)の設置に対する意見が交わされました。

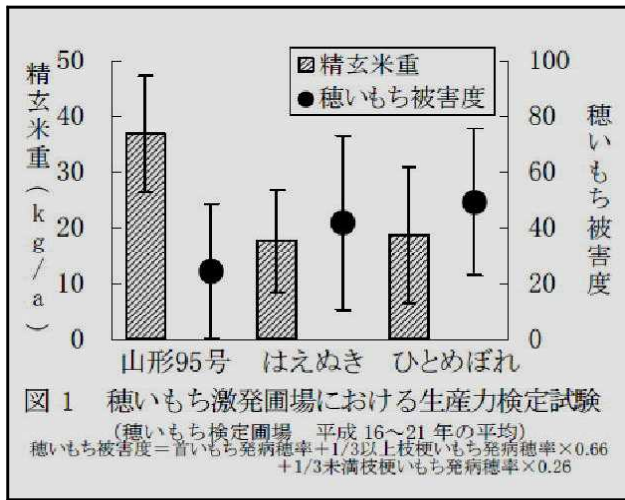
加藤鉦一議員は、「米の生産調整廃止はTPPを見越し、外米が自由に入ってくれば需給調整がでなくなる。米の補助金削減は大規模農家に打撃だ。農地中間管理機構では国と県が管理し農業委員会

新品種「山形95号」

同懇談会で山形県の米新品種「山形95号」について報告されました。その特徴は、

- ① 出穂期が「はえぬき」より1日早い。中生の晩で、「はえぬき」に比べて千粒重がやや重く、収量性が高い。
- ② いもち病に対する抵抗性が強く、穂いもちが激発する条件でも、「はえぬき」に比べて、穂いもち被害度が低く止まり、収量を安定し確保できる。
- ③ 玄米の外観品質は白未熟粒の発生が少なく、「はえぬき」並に良く、「はえぬき」並に良質である。食味は、特に炊飯光沢が優れ、「はえぬき」並の良食味である。

「山形95号」は良質・良食味で、いもち病圃場抵抗性に優れた品種とす。



食味が良く、いもち病に強い「山形95号」(県水田農業試験場・藤島)

種として普及が見込まれ、減農薬や有機栽培にも適しているとみられます。

しかし、県では「つや姫」の販売に力を入れていくことから、試験栽培はするが一般栽培への切り替えは考えていないとのこと。

種苗登録の名称は「山形95号」で登録し、一度登録した名称は現在変更できないことになっている(過去は山形45号↓はえぬき等)。特許庁へ登録する商標登録はJAとして進めても関知しないとのことです。

JA庄内たがわでは、「ひとめぼれ」や「はえぬき」からの品種誘導を進めていく考えで、平成26年度は28鈔、27年度は182鈔に作付け誘導していく考えです。

がいらなくなる。農家と農協、農業委員会つぶしに団結して対決しなければならぬ」と述べました。

ブローラーの鶏糞処理を藤島エコ堆肥センターで受け入れられなれ、産業課で検討することになりました。

NOSAI庄内からは、1県1組合化の検討状況について報告され、山形県の対応は平成23年4月25日に組織運営効率化研究委員会が設立、25年4月25日に同基本構想研究委員会が設立され、基本骨格について協議中とのこと。

地区公民館のセンター化 12月議会 加藤鉦一議員の総括質問への市長答弁

榎本市長 市の教育重点施策として生涯学習の支援を掲げ、地域活動センターにおける社会教育と生涯学習の推進を図っていく。

これまで同様各地域庁舎に社会教育担当職員を配置し、地域活動センターの管理運営を支援し、関係課が連携して地域活動全般への助言をはかる。

センターの職員や生涯学習推進員を対象とした研修をおこない、専門性の向上を図り、社会教育が後退しないよう努めていく。

センターの職員は広域コミュニティ組織と雇用関係を結ぶことになり、継続的な雇用ができ、より専門性が高まると期待できる。

財源は市から施設の管理運営委託料のほか、

組織の体制整備や活発な活動をおこなうための交付金を措置する。スタッフは専門的で重要な業務を担うものとして認識しており、その経費は交付金のなかに見込んでいる。

施設の愛称は市として定める予定はなく、市民が親しみやすいもので良い。
市町村合併で未調整になっていた事業は地域コミュニティ関連ですべて調整済みとなる。「地域自治」はすべての課題の大前提だ。

「まるごと」！日本共産党 連載始まる―中国をどうみる① ―「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

赤旗日曜版11月24日号から始まった。先月開かれた第9回中央委

員会総会で決定した第26回党大会(来年1月15日)18日、23

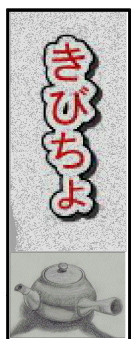


しんぶん赤旗・日曜版12月1日号

3年に開催)決議案の紹介である。12月1日号は第6章「日本における未来社会の展望について」で2つのテーマからなっている。1つは、中国、ベトナム、キューバなど社会主義をめざす国々

をどうみるか、2つ目は日本の未来社会である。第1のテーマ。北朝鮮をこれらの国に入れないことをお断わりしておく。第1の角度は、これらの国は「社会主義に到達した」国でなく「社会主義をめざして探究を始めた」国であるというのである。中国は、世界第2位の経済大国になったが、国民1人当たりの国内

総生産は発達した資本主義国の8分の1程度、社会主義の重要な土台である経済は未だしの状態で、市場経済を通して発展させようとしている。しかし、貧困・格差・環境汚染・民主主義など未解決の問題が多く、尖閣諸島問題など覇権主義や大国主義再現の可能性もあり、社会主義への道を踏み外す危険すらはらんでいる。



公約をヒルガエス

新聞報道によると、沖縄選出の自民党国会議員は、普天間基地の県外移設を公約して当選させて貰ったものを、石破自民党幹事長との話し合いで、公約をヒルガエスことになったというのだ。

▼県民との約束を反故にする位だから、話し合いをそれなりの圧力・オドシがあったらしい報道だが、選んでくれた選挙民への人道上の責任はどうなるのか、民主主義の選挙制度上の問題はどうか、日本国民として石破幹事長から聞きたいと思うのだが。

▼公約を反故にさせる目的は、辺野古に基地を移すために国が出した埋め立て計画を知事が承認しやすくするためだというのだが、全島民が反対する意を受けて当選した知事だもの、5人や3人の国会議員が選挙民を裏切っ

たからとて、そうすかとはゆくまいて。▼知事をオドスわけにはいかないからだろうが、次は1月におこなわれる名護市長選挙で、基地容認者を勝たせるために2人の候補予定者を1人にするんだ。▼自民党議員なら、あの眼でニラマレたらいづれ1本化するだろうが、新任大使の人氣も利用してナントしても沖縄の声をツブし辺野古に基地をつくりたいのだ。

▼これがつくられれば未来永劫、米軍基地はなくなるのだから。何かある度に政府が口にしてきた「沖縄の負担軽減」も未来永劫なくなるならないということだ。
▼秘密保護法ができれば米軍基地反対をとねえる者は、いずれコクゾクになるかも。だって石破氏のブログによれば、国会前の集会は「テロと同じ」と言っているからナ。 (石川)

グローブなき野球刈田の中走る

工藤 博司



(画・加藤貞雄)

昭和二十年代少年期を過ごした私達にとって、最も楽しみだったものは草野球に興じることであった。赤バットの川上哲治・青バットの太田弘選手等、有名プロ選手のプロマイドを収集するのも流行った。

私達の野球と言っても、グローブやミットはなく全て素手。バットも山の木を削った手製のもので、刈り入れの終わった田んぼが格好のグラウンドであった。そのため、ピッチャーマウンド

と、バッターボックスのところがかんかん固まって、春に田を起すのに一苦労だった筈だが、田の持主からは一度も苦情がなかった。あれから六十年も経った今も、そこにあった刈田の姿は変わらず、稲を運び込んだ後の稲架棒が雪の来る直前まで立っている。